

令和7年度 「学校関係者評価」

	<p>項 目 (重点としたものに○)</p>	<p>自己評価 (学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等)</p>	<p>外部評価者からの意見・指摘</p>
<p>教育環境の充実</p>	<p>①学校安全の推進 ○</p>	<p>①学校安全の推進 文化教育ゾーンの合同防災訓練（津波想定避難訓練）に本年度も参加したが、市民交流センター側から体育館に上る階段が封鎖されたという設定だったので、交流センター利用者の体育館への非難はなく、ほぼ本校単独の訓練となった。全校が体育館に参集するいい機会となったが、体育館へのアクセスは渡り廊下を使うしかないので、市民交流センターの設定同様に導線が遮断された場合をはじめ想定できる様々なシミュレーションでの避難訓練も検討する必要があると思っている。 今年度も職員向けの不審者対応訓練と児童向けの不審者対応訓練を、逗子警察署のご協力を得て実施できた。今年度も対象学年の避難の様子を映像で見ながらの訓練であったが、全校が避難することに意味があるとの署員の助言をいただいたので、次年度は訓練の方法について検討する必要があると考えている。 職員会議や週一の打ち合わせでは十分な時間を確保できなかったが、全国で起こった事故や事件、学校や地域で発生した事故についてはできるだけ間を開けずタイムリーに取り上げた。同様の事故発生の可能性や発生した場合の対応等を自ら意識し考えられるよう指導できた。</p>	<p>①学校安全の推進 ○例年の実施案に基づく訓練は何度も繰り返して行うことが重要である。それに加えて、海に近い学校として、南海トラフ地震を想定した避難訓練の必要性を感じる。地震の規模を想定したシミュレーションによる訓練の実施の検討が欲しい。 ○幼稚園ではIDカードを持っているものの、首にかけていない方が多数。これが課題。父親の見送りが多く、わかりにくい場合も。 ○子どもたちの生活の中で、けがを避けるような身のこなしができなくなっている。同じけがをすることが多い。 ■ 対策案 ・年1回は想定を壊す訓練”を導入（導線遮断・教員不在・停電想定など） ・危機管理を「教員依存」から「役割分散型」に ・危機シナリオを職員研修で共有し、生成AI等の活用も含め未来リスクを定期アップデート</p>
	<p>②教育情報化の推進</p>	<p>②教育情報化の推進 授業におけるICT機器の活用については、どの学年・学級でも積極的に行っている。年数回実施している校内研究の公開授業の参観の際も、</p>	<p>②教育情報化の推進 ○ICT機器の活用の推進を積極的に行っている点は評価が高い。同時にICT機器の使用による、マイナスの項目について</p>

		<p>情報共有の手段としてタブレット PC を活用しており、校内研究の在り方も時代に合わせて変化していると思っている。</p>	<p>も検討し、マイナス点の改善に取り組んでほしい。</p> <p>○子どももそうだが、大人の活字離れが進んでいる。園からのお便りなどが保護者に伝わっていない。忘れ物等にも影響する。家庭の教育力の低下につながっている。</p> <p>○ICT に触れる機会は早いうちから接していると思いますが、これからは生成 AI が主流の時代になってきている。インターネットが商用化された時代よりも、進化の速度が等比数列的に変化している事も踏まえて、先生側でも認識するような機会があったらいいと思う。家庭でもすでに AI を触っている児童も多くいると思う。</p>
<p>③地域との協働推進</p>	<p>③地域との協働推進</p> <p>今年度も地域で行われている会合にはできるだけ出席し、顔の見える関係性の構築に心がけた。今まで参加していなかった逗子小学校地区避難所運営会議にも新たに出席することになり、各自治体の方々のコネクションができた。</p> <p>地域の方々を外部講師として招聘し、児童の学びが深まるよう全学年で努めた。専門的な知識やスキルをお持ちの外部講師の活用は、児童によい刺激を与えることができている。地域との繋がりには維持できていると感じている。また、近隣の保育園・幼稚園に本校の体育館と校庭を貸出し、運動会を開催したり、スポーツ少年団等に校庭をお貸ししたり等の取り組みが、地域との協働に繋がるきっかけにはなっていると考えている。</p> <p>コミュニティ・スクールの導入に向けて、中部地区管理職ミーティング</p>	<p>③地域との協働推進</p> <p>○各自治体の方々とのつながりは大変重要であり、地域の方々を外部講師として招聘することは重要な活動である。また、コミュニティ・スクールの開催に力を注いでほしい。</p>	

		<p>を 10 回程度開催し、導入に向けての準備を行った。様々な課題はあるものの、次年度初めからの導入に繋げ、うまく機能するようにしていきたい。</p>	
	<p>④学校評価を生かした学校づくり</p>	<p>④学校評価を活かした学校づくり 昨年度末にいただいた学校関係者評価委員による外部評価の指摘事項を学校経営方針に盛り込み年度をスタートした。ご指摘を意識しながら学校経営を行ってきたつもりであるが、全てを達成できたとは言えない。外部評価の指導事項親や保護者アンケートによる評価を大変貴重なので、いただいた評価やご意見を次年度の学校経営に生かしていきたい。</p>	<p>④学校評価を活かした学校づくり ○ぜひ、自己評価のようにしてほしい。 ○評議員会で課題と聞いていたことが、次の評議員会では必ず改善されているか、少しずつ進んでいる。そこにもいつも感激している。</p>

<p>I 学習指導の充実</p>	<p>①授業改善の推進 ○</p>	<p>①授業改善の推進 昨年度の校内研究から国語科を中心とした授業改善の研究を行っている。今年度も国語の授業は学級担任が行うこととし、学年の教員全員で同じ教科の教材研究・教材準備を行い、国語科の授業の在り方を研究し授業改善に努めた。教材研究に充実感を覚えた教員も多くいることから、少しずつ成果が見え始めている。次年度以降も研究を継続していく方向で考えている。 有志教員が企画した「ミニ学習会（研修会）」を今年度も開催した。教員OBOGの方にも講師になって頂き、また現職の教員も講師として授業改善・学級運営改善のためのヒントをてにできる有効な機会になったと思っている。時間を捻出することが難しいが、次年度も継続していきたい。授業づくりだけに特化した内容ではなかったが、経験の異なる教員がざくばらんに話ができる機会を提供することができ、は大変貴重な時間となった。</p>	<p>①授業改善の推進 ○授業改善にとって教材研究や準備は時間がかかるが非常に効果的である。また、他の教員との議論や協働作業が発生することで、学校としての教育力となる可能性が高い。あせらずに丁寧な活動を心掛けてほしい。 ○なんとか先生方の負担を減らして、ボトムラインにいる生徒へのフォローアップできる時間を確保してほしいと思う。昨年もお話しましたが、日本中で基本的に同じ教材をつかい、同じアウトプットをしているはずなので、YOUTUBEなどの動画教材も含めて、授業準備にかかるような時間を減らすべきだと思う。 ○授業の様子を拝見し、全学年の先生方がチームになり、逗子小の児童達を教え、見守っていると感じた。1クラスに2人の先生が入っているクラスもあれば、オープンスペースに出て、先生が一对一で教えているところも見かけた。 ミニ研修会も開かれて、逗子小学校の先生方は熱心な先生ばかりである。</p>
----------------------	-------------------	--	---

	<p>②健康体力づくりの推進</p>	<p>②健康体力づくりの推進 今年度は、体育部のメンバーを各学年1名にしたが、体育施設や用具等の管理にとどまり、学校全体として健康体力づくりを意識した取り組みや、日常的な取り組みを促すための体育委員会などを巻き込んだ組織的な取り組みはできなかった。児童の「遊び」や日常生活の中に、体力づくりの機会を確保することについて引き続き努力していくとともに、体育委員会などを巻き込んだ組織的な取り組みについて模索していきたい。</p>	<p>②健康体力づくりの推進 ○子どもの体力づくりに欠かせないことが遊びを通じた活動であることが考えられる。日常生活の中で遊びを重視していることが評価できる。 ○幼稚園でも大人から子どもたちへのスキンシップが課題。幼児期のスキンシップの減少に危機感を感じている。</p>
	<p>③体験活動の充実</p>	<p>③体験活動の充実 以前よりも規模を縮小したが、今年度も夏季休業中にサマースクールを開催した。外部講師による授業中の「出前授業」同様に体験活動の機会を提供することができた。児童の応募状況からして、引き続き児童のニーズがあることがわかる。サマースクールに係る準備や運営をコーディネーターの皆さん中心に行っていたので、一部の職員に負担がかかることなく、管理職のみの負担で実施することができている。次年度についても今年度並みにサマースクールを実施し、児童の体験活動の機会を提供していきたい。</p>	<p>③体験活動の充実 ○子どもたちの学びは体験を通すことで成り立つことが大きい。ただし、活動を通じた学びには、実施にも準備にも時間もエネルギーも必要である。その点、コーディネーターの方々の参加は非常に理にかなっていると言える。</p>

	<p>④今日の課題への取り組み</p>	<p>④今日の課題への取り組み 今年度も、助産師を講師に招き性教育の学習機会を全学年に提供した。発達段階によってその提示方法などが難しく、以前賛否両論あるものの、以前よりご家庭の理解を得られてきていると感じている。子どもたちが自らの心と体を守るために必要な学びであるので、子どもたちが正しい知識と行動を身に付けることができるよう引き続き実践していきたいと考えている。 「今日的な課題」は日々新しく生じてくるものであるが、その都度タイムリーに取り上げ、取り組んでいきたいと考えている。</p>	<p>④今日の課題への取り組み ○学校教育の中で必要であるが、賛否両論があるような学習については、専門的な知識や技能をもっている方々の援助を受けることで、児童だけでなく、教員も大きな学びになることが期待できる。</p>
<p>II 支援の充実</p>	<p>①支援環境の充実 ○</p>	<p>①支援環境の充実 昨年度同様、教育相談コーディネーターを専任にし、支援教育の中心に据えた。教育相談の窓口をほぼ一本化にすることができ、教育相談コーディネーターを中心とした校内連携や外部連携を進めることができた。1月から特別支援学級担任の産前休暇にともなう代替の未配置により、教育相談コーディネーターを担任に充てる事態が生じたが、教育相談コーディネーターの仕事を教頭と分担して行うなど、学校全体でサポートする体制にはなったと考える。 今年度から支援教室専任指導員が配置となり、支援環境の充実に向けて新たな一歩になったと感じている。今年度は相談室を校内支援教室としていたが、次年度は新たな場所（会議室）に移転し、より充実したものにしていきたい。</p>	<p>①支援環境の充実 ○教育相談コーディネーターを支援教育の中心に置き教育相談の窓口の一本化を進めたことは高く評価できる。支援教育の充実を感じられ、高く評価できる。 ○素晴らしいと思う。 ○答えなき問を説き続けなくてはいけないと思う。フランスでは、いじめを行った方が転校する事をルール化させたと聞いている。また、学校は勉強する場であり、学習のサポートすること以外は先生の仕事ではないと明確になっているそうである。つまり児童たちの揉め事、いじめの解決は先生の仕事ではないとなっていると聞いている。これが正解かわかりませんが、先生方に負担をかけ過ぎないように体制をとってほしいと思う。</p>

	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p>	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p> <p>教育相談コーディネーターを専任にすることができたことと、支援教室専任指導教員の配置のお陰で、支援教室の運営が前年度以上充実し、不登校傾向のある児童にとって、支援教室が安心できる居場所のひとつになったと感じている。次年度は教室の移転を考えているので、児童指導支援部と教育相談コーディネーター、支援教室専任指導教員とともに新たな環境を整えていきたいと考えている。</p> <p>たてわり班活動（異年齢による活動）は今年度も継続して実施した。一年間をかけて高学年児童の責任感などが強くなり、中学年・低学年児童との絆が深まっていく過程を目にすることができ、何とも微笑ましく、絆づくりの場となっている。下級生もリーダーの姿を目にし、数年後の自らの姿のモデルとしていることがうかがえ、絆づくりの場となっている。</p> <p>すべての児童にとって、学級や学年が安心でき、魅力ある居場所となるように学級経営や学年経営に包んでいるが、不登校や登校渋りの出現を考えると、必ずしも学校側の考える居場所にはなっていないと言える。次年度以降も更なる努力の必要性を感じている。</p>	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p> <p>○支援教室専任指導教員の配置によって、不登校傾向の児童の居場所となっている点は大変良い。また、異年齢交流の場を設けることで、一人っ子が上級生や下級生のとのつながりが持てることが評価できる。兄弟姉妹の場合は兄や姉は常に兄や姉であり、弟や妹は常に弟や妹であるが、異年齢交流では立場がいつか変わることができる点が重要である。</p> <p>○オープンスペースを利用した、児童の習字や絵画等の展示は今回も楽しませていただいた。どの作品も元気があり、画用紙からはみ出るくらい描きこんでいるのが良かった。逗子小学校に壁がないことについては賛否両論ありますが、私はこのオープンスペースの作品展示はすばらしいと思う。壁に貼って上手いとか下手とか比べるのではなく、自分の描いた絵や作品で教室やオープンスペースを飾って楽しもうという感じがあり、とても好きである。</p> <p>○不登校の親の心労、不安など想像すると居たたまれない気持ちになるが、学校、家庭以外の居場所を作るべきだと思う。いじめが理由での不登校については、この限りではないと思うが、「学校がつまらない」類の理由は、学校のせいではないと思うし、学校・先生が解決できる問題ではないと思う。学校も家庭も生徒も誰も悪くない前提で家以外の居場所があればいいのではないかと思う。</p>
--	-----------------------------	--	---

	<p>③いじめ対策の推進</p>	<p>③いじめ対策の推進</p> <p>昨年度内にいじめ防止対策基本方針を見直し、今年度初めの悉皆研修後に、さらに検討を重ね 10 月に改訂版を示した。いじめと思われる、あるいはいじめに発展しかねないトラブルを認知した際に「いじめ防止対策委員会」を開き、早期の対応を行うことができた。児童指導支援部を中心に組織的に対応をできたと考えている。</p>	<p>③いじめ対策の推進</p> <p>○逗子小学校の「いじめ対策方針」を拝見したが、コンパクトにまとめ、非常に的確な対策が記載されていた。この方針を維持しながら、教職員が協力していじめ対策を行ってほしい。</p>
	<p>④不登校対策・問題行動対策の推進</p>	<p>④不登校対策・問題行動対策の推進</p> <p>不登校が続いている児童や登校渋りのある児童については、本人や家庭との繋がりを切らないよう丁寧に保護者や関係機関との連携を保持してきた。新規の不登校児童を生じさせないため、魅力ある学校づくりは大切であり、常に念頭に置いて努めているが、不登校の出現率は必ずしも低くならなかった。不登校が継続している児童数名については、担任の働きかけにより、給食を食べるために登校したり、放課後関わりをもったり、学校へ足を運ぶことができるようになった。</p> <p>職員会議や週一回の打ち合わせの際、全教員の共通理解が必要な児童の情報交換については継続的に行っている。不登校や問題行動に繋がらない対策になっていたとっている。</p>	<p>④不登校対策・問題行動対策の推進</p> <p>○不登校の児童には一人ひとりに対してそれぞれの対応が必要であるため、一概にどのようにすべきかが見えない場合が多い。問題行動の児童に対しても同様な点が多い。どちらの場合も丁寧に寄り添って、相手を理解することに努めてほしい。</p>

	<p>⑤幼・保・小、小・中の連携推進</p>	<p>⑤幼・保・小、小・中の連携推進 毎年、新就学予定の園児たちを招いて、小学校の環境に園児に慣れてもらうために「ようこそ集会」を企画していたが、今年度は1年生の行事「秋祭り」に保護者同伴で招待する形式をとった。幼保小の連携を図る大切なイベントのひとつであったが、昨年度までは他校と日程がかぶってしまったたり、本校に就学しない園児の来校もあつたりしたので、新たな試みとして行うことにした。これとは別に保育園・幼稚園の学校見学も数園行うことになっている。学校の職員にも園の職員にも負担の無いような形を今後も模索し、連携を進めていきたい。 市教育委員会が主催している担当者会議に担当が参加し、幼稚園・保育園との連携および情報共有をしてきた。年度末には新就学児童が在籍する幼稚園・保育園に訪問させていただき、園での様子等を参観させていただく機会を本年度も設けた。新1年生がより良い環境で小学校の生活をスタートさせる準備をするために有意義な連携となった。</p>	<p>⑤幼・保・小、小・中の連携推進 ○幼保一貫の子ども園やり、小中の連携が進む中で、どのようにスムーズに子どもたちを育てていくことが望ましいか検討が必要になっている。さらに保護者の求めるものも多種多様になっていることが目立っている。保育園から中学校までの全部門が協力して対応することが必要であろう。ぜひ連携を強めていってほしい。</p>
<p>III 学校組織の充実</p>	<p>①学校・学年・学級経営の充実 ○</p>	<p>①学校・学年・学級経営の充実 各分掌と学年会が連携し組織的に学校を運営することができたと考えている。不安定な学級に対し、全職員による支援体制を組んで対応を行い、年度末に向け少しずつ成果が見られるようになってきた。療養のため担任が抜ける時期が複数あったが、教頭を中心に補欠体制を組み、年度末を迎えることができた。かなり厳しい状況が長く続いたので「充実」とまではいかなかったが、全職員の力で乗り切れたと考えている。</p>	<p>①学校・学年・学級経営の充実 ○学級が不安定になった場合の対応として、教頭による補欠体制や全職員で支援体制が取れたのは大変優れた状況である。ただし、このような場合が長く続くと、他の学級などのも不安定になることがあるので、無理は禁物である。</p>
	<p>②研究・研修の充実</p>	<p>②研究・研修の充実 今年度も逗子市教育委員会からの</p>	<p>②研究・研修の充実 委託研究を校内研究として進</p>

		<p>委託研究を校内研究として進めた。各学年の研究の成果を授業公開という形で示しているが、2学年の授業を同時に展開しなければならなかった。より充実した研究になるよう、工夫を検討していきたい。</p> <p>各教員が担当として参加した研修については復命書などの提出を求めているが、全職員で共有する必要があるものである。限られた時間の中でそのような機会を設定する努力を行っていきたい。</p>	<p>めたことできざまな困難もあったことと思うが、そのような研究がいずれ大きく前に進む機会となるに違いないと思う。</p>
	<p>③信頼に基づいた指導の推進</p>	<p>③信頼に基づいた指導の推進</p> <p>保護者から「不適切では？」と指摘された指導がいくつかあった。保護者や地域の方との信頼関係が崩れると、失った信頼を再び取り戻すことはかなりの時間を要する。信頼を損なう対応が起こらないよう、素早く丁寧な対応を常日頃から行わなければならないと思っている。児童に対する言葉遣いをはじめ、引き続き、教員が研鑽を積めるような機会を提供していきたい。</p>	<p>③信頼に基づいた指導の推進</p> <p>○保護者からの指摘が必ずしも正しいかどうかは不明だが、指摘されたことを再度ふりかえり、真摯に受けとめようとしている点は大変優れた態度である。言葉遣いには十分な注意が必要である。</p> <p>○「不適切では？」について、先生も聖人君主ではないので、そういう事もあると思う。ましてや、子どもからの伝言で親は聞く話であって、自分で直接耳にした話でもないと思う。学校の仕事ではないと思うが、ダイバシティ、インクルージョンに関する知識を親も学ばなければならないと思う。</p> <p>関連して、学校はサービス業ではない。というメッセージも適宜発信すべきだと思う。</p> <p>○保護者からのカスタマーハラスメントはあるか？幼稚園では入園のしおりにカスタマーハラスメントについての対応を記載している。</p>
	<p>④働き方改革の推進</p>	<p>④働き方改革の推進</p> <p>スクールサポートスタッフ、教職員庶務補助員の配置により、教員の仕事のうち、授業準備や学級・学年事</p>	<p>④働き方改革の推進</p> <p>○日本の小学校教員の学校での勤務時間は先進国でとびぬけて長時間であり、フィンラン</p>

		<p>務等をサポートしてもらうことができ大変助かっている。</p> <p>細かいところでいえば、チャイムの入り切りを手動で行わなければいけない状況があったり、まなびポケットの登録作業を担当者が時間を割いて対応しなければならないなど、本来学校で行うべきものではないような対応に時間を費やされることもまだまだ多い。学校教育環境の整備に関しては、市の予算等が関わる問題であるので、引き続き関係各所に働きかけを行っていきたい。</p>	<p>ドなどの約2倍の時間毎日仕事をしていると言われている。国としての対応が必要である。少なくともサポートスタッフや補助員などの増員が望まれる。</p> <p>○メンタルを病んでの休職は現状ないと伺った。先生方が心身ともに健康に働くことができる環境づくりをやっていただけることが一番。それが逗子小学校ではできることが素晴らしいと感じている。</p>
--	--	---	--

① 安全管理の高度化が「想定依存」になっている

■ 現状

- 避難訓練は実施しているが、導線遮断など複数シナリオ想定が未十分

②【逗子学校】別紙評価シート雛型（自己評価）

- 不審者訓練は実施しているが、全校避難型への転換が検討段階

②【逗子学校】別紙評価シート雛型（自己評価）

■ 課題の本質

「実施している」状態から「想定外に耐えられる設計」へ進化できていない。

■ 対策

- 年1回は想定を壊す訓練を導入（導線遮断・教員不在・停電想定など）
- 危機管理を「教員依存」から「役割分散型」に
- 危機シナリオを職員研修で共有し、生成AI等の活用も含め未来リスクを定期アップデート

② ICTは活用しているが、戦略がない

■ 現状

ICT活用は積極的

■ 課題の本質

「使っている」と「教育戦略として位置付けている」ことは別。

■ 対策

- 校内で生成AIガイドライン策定
- 教員向けAI研修を年2回以上
- 授業準備の効率化にAI・動画教材を正式活用（外部意見でも提案あり）

→ ICTは「授業の質向上」と「働き方改革」の両輪に使う。

③ 教員負担が構造的に重い

■ 現状

- 研究継続や学習会実施
- 不登校・問題行動対応で継続的負荷

- ・補欠体制で何とか乗り切った
 - 細かな業務に時間を取られている

■ 課題の本質

「善意で回している組織」になっている。
持続可能性が低い。

■ 対策

1. やめることを決める
 - 校内研究の形式簡素化
 - 復命書不要なら「共有会」15分制へ
2. 業務の外注化・分離
 - 登録作業等は事務一元化
 - いじめ初期調査は専門スタッフ活用
3. 「学校はサービス業ではない」というメッセージを定期発信
(信頼の土台づくり)

④ 不登校対策は“学校内完結”になっている

■ 現状

支援教室の充実、不登校対応は丁寧

しかし出現率は下がっていない

■ 課題の本質

学校の努力だけで解決しようとしている。

■ 対策

- 学校外の居場所の公式連携（地域拠点・民間施設）
 - 不登校＝「学校復帰目標」から「社会接続維持目標」へ再定義
 - 不登校理由別に対応モデルを分ける（いじめ型／無気力型／適応困難型）
- 「誰も悪くない前提」で制度設計を。

⑤ 体力づくりは“自然発生活期待型”

■ 現状

組織的取り組みが不十分

■ 課題

意識はあるが仕組みがない。

■ 対策

- 体育委員会主導の“毎日5分運動”
- 朝活動の軽運動化
- 遊びの構造設計（用具配置で動線誘導）

⑥ 信頼問題は「対応型」で「予防型」ではない

■ 現状

不適切指導への指摘

信頼回復に時間を要する認識

■ 課題の本質

事後対応中心。

■ 対策

- 年1回の「指導言語チェック研修」
 - 保護者向けメッセージの定期発信
 - D&I教育は保護者も巻き込む設計
-

⑦ 強み（伸ばすべき点）

これは大事です。課題だけではない。

- 教育相談体制はかなり整っている
- 地域連携は機能している
- 授業改善は成果が見え始めている

→ 土台はある。問題は「持続性」。

全体総括

この学校の本質的課題は：

「個々の努力で回っているが、制度設計が追いついていない」

です。

やるべきことは：

1. やめることを決める
2. 外部に出すことを決める
3. ICT と AI を“戦略”にする
4. 不登校を学校内課題に閉じない